［論文］

郁達夫作品翻訳から見る中日の言語文化の違い

饒　秋玲

1. はじめに

中日は一衣帯水の隣国で、同じく漢字を使っている。両国は広い分野にわたって交流し続けている。文学作品の翻訳もお互いに数えきれないほど行われている。しかし、異国文化言語のため、その中にはやはりいろいろな不備や誤訳が散見される。言語上はもちろんのこと、文化、人々の考え方などの違いによるものも見られる。本篇では郁達夫のいくつかの主な作品の中国語版と日本語訳版を対照しながら、そこに見られる言語文化上の違いを述べていきたい。

2. 中日言語文化の違い

2.1　数量表現の欠如の問題

数量表現は中国語にもあれば、日本語にもある。しかし、日本語の数量表現は中国語ほど多くないようである。

中国語の数量表現の中の量詞については、「漢語の量詞は豊富多彩で、使い方も多い。正確に物あるいは動作、行為の量を表せるだけでなく、言語表現の生き生きとしての作用、鮮明さを強めることができる。したがって、相当のレトリックの働きを持っている」[1)] といった指摘に加え、何傑[2)] も「漢語の独自持っている特徴は、漢語の量詞の持っている色彩の意義に反映しているはずである」と言っている。「形象色彩」とか、「情態色彩」とか、「格調色彩」などがそれである。

一方、日本語の数量表現は、たとえば、その助数詞は、中国語のそれと比べて全体的に種類や数が少ないようである。また、その使い方として、

中国ほど多くないようである。郭春貴[3)]は日本語の数量表現の特徴として二点を挙げている。一つは「日本語は抽象名詞に量詞を使わない」という点で、もう一つは「日本語は話し手と聞き手がお互いに目的語が単数であることがわかれば、数量詞を使わない」という点である。しかし、中国語では、量詞がレトリックの上で色彩を持っているから、抽象名詞にも単数の場合にも数量表現を用いる。

中日の数量表現の使い方にはこのような違いがあるので、翻訳作品において、ときには、微妙なずれが生じてくるのも無理はないだろう。例を見ていこう。

1　工作操劳本系是她在家里的时候所惯习的，倒并不以为苦；所最为难受的，却是多用一支火柴，也要受婆婆责备的那一种俭约到不可思议的生活状态。

（迟桂花　p202）

(1) 働くのは彼女が家にいる時からの習慣で、決して苦にならなかったが、たまらないのは、ちょっと薪を余計に使っても姑からひどく叱られるという、不思議なほど倹約な生活状態だった。

（岡崎俊夫訳　遅咲きの木犀　p104）

2　一层茫茫的薄雾，把海天融混作了一处，在这一层混沌不明的薄纱里，西方那将落不落的太阳，好像在那里惜别的样子。

（沉沦　p39-40）

(2) 茫々たる薄霧が、海と空とを一つにとけあわせていた。この渾沌とした薄紗の影の中で、西に沈む太陽はあたかも別れを惜しんでいるようすであった。

（植田渥雄　駒田信二訳　沈淪 p57）

3　他的脑里虽然有这样的想头，其实他的心里早有一些儿厌倦起来。

（沉沦　p15）

(3) もっとも、自分でそう思いこんでいるだけで、実はもう嫌気がさして

いるのである。

（植田渥雄　駒田信二訳　沈淪　p38）

この三つの中国語のセンテンスの中に数量表現があるが、日本語のセンテンスの中では単数或は抽象事物のため、数量詞が省略されている。

１は『遅咲きの木犀』の中の妹の蓮の、嫁入り先での息苦しい生活状況を表している。姑は吝嗇で蓮をいじめるが、この「一支」という数量表現を使うことによって、姑のけちぶりを徹底的に描写し、また蓮の苦境をもあわせて表している。訳された日本語では「一支」という数量表現が省略されており、その分姑の吝嗇さや蓮の苦境ぶりが弱められてしまう。なぜなら中国語の数量表現にはレトリックを効かせる作用があるからで、「漢語の量詞は格調色彩を持っている」、「量詞の格調色彩は主に文学作品の中に応用している」、「量詞の格調色彩は言語の表現力を増やす上には特殊的な表現作用を持っている。この特徴はとても目立つである」[4)]の通り、上の「一支」があることで表現力が一層強められているのである。

２の「一层」もこのような作用を果たしている。『量詞の格調色彩の運用は一種の特殊の「境地」を創造できる』。[5)]「一层」は景物を修飾し、行間から自然に一種の孤独さと寂しさをしみ出す効果をもたらしている。

３の「一些」は抽象名詞の嫌気の程度を表わす数量表現である。(3)の日本語のセンテンスの中ではやはり省略されている。中国語の一部の量詞の意味には模糊性がある。「量詞の模糊の意味とは量詞が表現する対象の範囲の境がはっきりしていない。即ち、外延の境が模糊で、伸縮の幅が大きい。量の表しが不確定である」。[6)]「些」は模糊の意味を持っている量詞である。即ち、「一些」という数量表現は一体どのぐらいの量を表しているかはわからないが、模糊とした量の存在を表すのである。３の「一些儿厌倦起来」は主人公の嫌気を表しながら、その程度は曖昧にとどめている。また、『量詞の後ろに「儿」を接続したら、文法意味上は「大」から「小」へと変わっていく』[7)]ように、主人公の嫌気を曖昧に表しながら、その程度があまり高くないことも感じさせる。中国語の「一些儿」

にはこういったニュアンスが含まれるのであり、それが省略された日本語のセンテンスではそこが伝わらず、それだけ主人公の気持ちを表すのにズレが生じることになる。

数量表現は省略されがちだが、文学作品のレトリックという面で、場合によっては欠かせない存在にもなり得るのである。

2.2　漢字の誤訳の問題

中日両国はともに漢字を使用しており、古代から日本は中国から移入した漢字を使用し、近代になって西洋への接近が始まった後は多くの新漢語を作り、それが中国へも逆輸入されてきた。共に「漢字文化圏」に属する中日両国間には、同形同義が多い一方で、同形異義あるいは不同形不同義も多いという漢字が持つ特性が故の問題も横たわる。

4　我看了她这种单纯的态度，心里忽而起了一种不可思议的感情，我想把两只手伸出去拥抱她一回，但是我的理性却命令我说：“你莫再作孽了！你可知道你现在处的是什么境遇！你想把这纯洁的处女毒杀了么？恶魔，恶魔，你现在是没有爱人的资格的呀！”

（春风沉醉的晚上　p115）

(4) 私は、彼女のこんな単純な態度を見て、心にふと一種不可思議な感情がわき起こった。私は両腕をのばして彼女をだきすくめたくなった。しかし、私の理性が私に命令した。「こら、悪いことをしてはいけない。貴さまはこの純潔な処女を毒殺するつもりか。悪魔！悪魔！貴様は愛人をもつ資格なんかないのだぞ！」

（岡崎俊夫訳　春風沈酔の夜　p 71）

『春風沈酔の夜』の中で、男女二人の主人公が互いの誤解を解消した場面である。男主人公は神経衰弱で、貧困のせいで厚い服しか持っていないので、毎日まだ涼しい夜更けに散歩に出かけたが、女主人公は男主人公が毎晩外で悪事をはたらいていると疑っていた。そして男に対して悪事を止めるよう諭し、それに対して男が事情を話して誤解が解けた。男はこれほ

ど自分の身を案じる女に心を動かされ彼女をだきすくめたく思うが、すぐに自分の貧困と無力さに思い至りそれを控えた。男としての責任を感じ、自分には彼女を恋人として愛する能力や資格がないことを「你现在没有爱人的资格的呀！」と嘆いた。

この「爱人」は「人を愛する」と「動詞＋目的語」の形で解釈できるが、中国語では名詞としての「爱人」は夫または妻、配偶者という意味にもなる。日本語では「愛人」は「情夫、情婦」といったやや後ろ暗い意味を持つが、中国語名詞の「爱人」にも、「動詞＋目的語」の形の「爱人」にもマイナスの意味はない。これは同形異義の一例と言えよう。故に日本語訳の「貴様は愛人をもつ資格なんかないのだぞ」には、原文にない感情を伝えてしまうことになる。「情夫、情婦」の意味の「愛人」が、原作が描く男主人公の責任感と女主人公の純真を汚してしまう可能性が生じるのである。

中国語には「愛人」という一見一語のようだが二つの解釈が可能な言い回しがある。次の例はその反対で、一見二語のようで実は一語の場合もある。

5　工作操劳本系是她在家里的时候所惯习的，倒并不以为苦；所最为难受的，却是多用一支火柴，也要受婆婆责备的那一种俭约到不可思议的生活状态。

（迟桂花　p202）

(5) 働くのは彼女が家にいる時からの習慣で、決して苦にならなかったが、たまらないのは、ちょっと薪を余計に使っても姑からひどく叱られるという、不思議なほど倹約な生活状態だった。

（岡崎俊夫訳　遅咲きの木犀　p104）

「火柴」は「用细小的木条蘸上磷或硫的化学物制成的取火的东西」[8] つまりマッチの意味である。小さな一本のマッチを余計に使っただけで姑からひどく叱られる蓮の苦しみの極まった状況を表している。しかし、(5) ではそこに「薪」を対応させている。「薪」は中国語では「柴火」の意味

で、形の上でマッチより大きいイメージである。原文では小さな「マッチ」を使って姑の吝嗇さと蓮の苦境を表しているわけだが、翻訳ではおそらく「火柴」を二語と見なして、「燃やす薪」としてしまったのであろう。

次の例文もやはり漢語二文字で、二つの言葉か一つの言葉かの問題である。

6　饶赦了！饶赦了！你们世人得罪于我的地方，我都饶赦了你们罢！来，你们来，都来同我讲和罢！

（沉沦　p35）

(6) 許してやる。許してやるぞ。お前たち世間のものどもがおれに加えた罪悪を、おれはみんな許してやるぞ。さあ、お前たち、みんな来ておれと仲なおりしよう。

（植田渥雄　駒田信二訳　沈淪 p53）

6の「得罪」という言葉について『古今漢語詞典』[9] は二つの解釈を並べている。一つは「惹人恼怒或不愉快，冒犯」、もう一つは「获罪」である。「惹人恼怒或不愉快，冒犯」は「人の気持ちを害する」意味で、一語とみなしている。一方「获罪」は「罪を獲得する」の意味で、二語になる。6の「得罪」は主人公が景色を眺めて上機嫌なときに発した言葉である。主人公は留学先の日本でいつも自国の弱さを意識し一種の劣等感を覚えながら、加えて自分の友達作りの不得意から日本人や中国人の友人にでさえ気持ちを苛立たせるのを常としており、それが今は美しい景色を見てそんな嫌な気分が一転し、周りの人に優しい目を向けようとする。したがってこの「得罪」は一語としてとらえるのが妥当であろう。しかし、(6) の「おれに加えた罪悪を」はおそらく「得罪」を二語としてとらえて、「罪を獲得する」の意味で解釈しており、原作の意味を違う方向へ導いてしまっている。

2.3　中日の「犬」と「豚」のイメージの違い

中国と日本では、犬とか豚などに対するイメージが違う。これは文学作

品の翻訳にも思わぬ影響を及ぼすことがある。『ささやかな供えもの』の最後の文を見てみたい。

7　我被众人的目光鞭挞不过，心里起了一种不可遏制的反抗和诅咒的毒念，只想放大了喉咙向着那些红男绿女和汽车中的贵人狠命的叫骂着说：“猪狗！畜生！你们看什么？我的朋友，这可怜的拉车者，是为你们所逼死的呀！你们还看什么？”

（薄奠　p125）

(7) 人びとの視線のせいとばかりはいえないが、わたしのなかに、抑えようのない反発やら呪いやらが湧いてきた。いまはただ、その着飾った男女や自動車におさまりかえる貴人に向けて、声のかぎり、力まかせに罵ってやりたかった。「見てどうしようというのか、豚ども。僕の友人、かわいそうな車曳きを死に追いやったのはキミたちだというのに。まだ、わからないのか」。

（阿部幸夫訳　ささやかな供えもの　p 83）

これは主人公が死んだ哀れな車引きの夢を実現させようとして、紙で作った洋車を買って葬儀で焼いてやろうとする場面である。車引きに同情しながら彼を虐待した金持ちの「貴人」たちに憤慨を感じ、それを罵るところである。「貴人」たちを「猪狗，畜生」と罵る。中国語は「猪狗」つまり「豚」と「犬」両方の文字を使っているが、翻訳文では「豚」だけが使われている。これは中国人と日本人の犬と豚に対するイメージが違うためであろうと思われる。

まず「豚」のイメージであるが、中国では正と負の両面の意味を持つ。谭菊仙[10]によれば、豚は実用価値が高く富の象徴である一方、外見が醜く肥満して口が卑しい怠け者といった象徴でもある。「猪と豚という二つの漢字は中国語では同じ意味で、日本語では大きな差異がある。猪は「いのしし」のことで、日本人の心の中では奥山の中で狼のつぎに手ごわい、強い、尊敬すべき存在で、勇敢のシンボルである。しかし「豚」は家畜の豚のことで、中国人のいうのと同じ、象徴の意味も漢語と同じ、おろかで

怠惰で肥満の象徴である」。[11] つまり中国でも日本でも「豚」という文字はマイナスイメージで使われている。

次に「犬」のイメージであるが、中国では犬は賢いなど積極的な意味もあるが、「ほとんどの場合、犬は人々が攻撃する、罵る、非難する、からかう対象としての存在である」。[12] これに対して、「日本人は犬に対して従来から可愛がっている。誰しもが犬の性質を人類の悪い人間性とつなげて一緒に考えていない。彼らの頭の中には犬をけなす先入観はない」。[13]

このように、同じ動物に対しても、中日両国民の頭の中のイメージが違うため、７のセンテンスは「犬」と「豚」の文字を使って「貴人」を罵るが、日本語訳のセンテンスの中には可愛がられている「犬」を省略して、よくないイメージの「豚」だけを用いているわけである。

3. 終わりに

以上、郁達夫作品の中国語版と日本語訳版を対照しながら、中日の言葉と文化の違いを考察した。これらの違いに両国間の言語文化の違いが見られる一方、より興味深く作品を楽しむ手がかりとすることもできよう。同時により客観的に言語文化上の相違について考えることもできよう。これ以外にも、例えば両国の色に対する使い方の違いとか四字言葉の翻訳の扱いなど論考する余地は多く残されており、次回の機会に試みる所存である。

注：注釈１、２、10、11の引用の翻訳は筆者。

中国語の郁達夫の作品は 2012 年 1 月第 1 版、天津人民出版社の郁達夫著小説集『沈淪』を参照

作品の日本語訳は『春風沈酔の夜』は昭和 47 年、平凡社の松枝茂夫編の『郭沫若　郁達夫集』を参照、『沈淪』『ささやかな供えもの』『遅咲きの木犀』は昭和 46 年の河出書房新社の『現代中国文学６　郁達夫・曹禺』を参照

注釈

１）华宏仪《汉语词性修辞》宁夏人民出版社　1993 年 8 月　p77
２）何杰《现代汉语量词研究》民族出版社　2001 年 8 月　p81
３）郭春貴「日本人にとって難解な中国語文法について」広島修大論集　人文編 42（2）p 30-31　2002 年 2 月 28 日
４）同注２　p 108
５）同注２　p 110
６）同注２　p 125
７）同注２　p 76
８）中国社会科学院语言研究所词典编辑室编　《现代汉语词典》商务印书馆　2002 年增补本　p573
９）吴昌恒　陆卓元等编『古今汉语词典』四川人民出版社　1989 年 8 月
10）谭菊仙「中日两国猪文化之异同」学园：教育科研　2011 年第 4 期　p41-42
11）池华波「从日语「犬猪亀鬼」四词看中日文化之差异」商情　2009 年 27 期 p19
12）同注 11
13）同注 11